

## 博物館と連携した学校史料をもちいた地域教材開発

代表 海津 一朗      連携研究者 田城賢司(熊野高校) 山口康平(附属中学校)  
/ 島津俊之 山神達也 岡崎裕(以上教育学部) 長廣俊崇 吉村輝旭 西川明宏(学内他部局)  
/ 山村恭平 西島野々華 (以上海津ゼミ)

### 【活動趣旨】

3年目になる2020年度は、人的空間交流のできない状況にかんがみて、メッセージ性の高い電子教材開発と提供を試みた。具体的には、由良ふるさと伝承館・朝日新聞社和歌山支社・NHK和歌山市局・南方熊楠顕彰館(田辺市)・紀州経済史文化史研究所と連携して、和歌山の近代戦争についての映像教材を作成した(次頁以下にシナリオ)。内容は昨年度の地域連携報告会における口頭報告の内容である。また、映画の撮影・編集・放映に際しては、本学の学術情報センターに全面的な支援をいただいた。

### 【作業履歴】

2/15 田城・山口以下紀伊半島世界史研究会の有志教員にて会合 活動方針案  
7/初 和歌山大学・教員評価の社会貢献部門にて本企画の評価を知り方針転換する(海津)  
12/8 由良ふるさと伝承館の調査(海津 山村)  
12/15① 「日本史概説」授業・特別講義撮影(田城 西川ロケ隊)  
12/15② 紀州研所蔵師範学校史料の閲覧・撮影(田城 島津 吉村 西川ロケ隊)  
1/15① 由良ふるさと伝承館 川端邦男氏インタビュー(海津 西川ロケ隊)  
1/15② 由良小学校・校歌の収録交渉(同上)  
1/22 田辺・南方熊楠顕彰館 映画「熊野路」閲覧(海津 田城)  
1/23 テーマ音楽制作(長廣)(楽譜本誌収録)  
1/30 「熊野路」使用権をめぐる野村親玄氏と交渉・妥結(海津)  
1/31 シナリオ第一次案(本誌)の作成(海津)  
2/5 学情センター撮影スタジオにて「声の出演」アフレコ(西川 西島)  
2/10 より編集作業(西川・海津)  
採録シナリオ  
採録シナリオ

## 「消えたアヘン帝国 和歌山大学の戦争責任（仮）」第1稿

作・海津 一朗

### 1 戦前 国民学校の教室

白いケシ畑の写真「1915年ケシ畑 有田市」

テロップ「日本が戦争をしていた時代 紀伊半島は「白い花の女神」の国だった」

朗読少女

「モルヒネとり 湯浅高等科一年 小池キヨエ

…学校は今日から一週間いっせいに休みとなり、上級生の子供達はみんなそれぞれモルヒネとりに行きます。モルヒネとりはけしぼうずにナイフで何本もたてのすぢを入れて置くと、そのすぢに白くふきでる乳のやうな白い水をへらであつめて廻るのですが、夕方すぢをつけて置くと夜の間にその白いけしの乳が出ます。それを朝ぶきと言ってまだ夜のあけないうちからあつめに行くのです。

…小母さんは首に竹の筒をつりさげてみて、手に持ったへらでけしぼうず上手になでると白い乳がへらの先に少し盛り上がった。それを竹の筒の口にひっばってある糸でなで落としてから、

「ゆるゆる取っておくれよ。モルヒネによくて、頭いたくなるやわからんし、口もにがくなるよってな」と言ひました…」

画面 写真（アヘン汁を吹くケシ坊主、ケシ坊主だらけの畑の記念絵葉書）

素読み 0:01:3 後半にテーマ音楽 BGM 微音通奏入

### 2 タイトルバック 「消えたアヘン帝国 和歌山大学の戦争責任」

テーマ音楽強く

白地のバックから浮かんでくるタイトル

バックが黒く変わっていきタイトル文字がみえなくなる ブラックアウト

#### 3-1 2020年8月 朝日新聞

テロップ「2020年、逼塞の夏、朝日新聞・和歌山支社はアジア太平洋戦争戦時下における和歌山県のアヘン生産・輸出の実態を徹底取材。敗戦特集に異例の4回連載を行い、全国に発信した」。「白い花の女神」の語はこの時に注目された（広川町史の記載）

画面・「朝日新聞記事 2020年8月25日～28日 朝刊」取材班：藤野隆晃記者

#### 3-2 2020年12月和歌山大学教育学部 藤野隆晃

テロップ「和歌山大学では藤野記者に特別講義を依頼した」

画面 ケシ栽培絵葉書・写真 「(阿片2分総括のとき)「有田・日高地方のケシ栽培は絵葉書や映画になるほどの紀州名所、「故郷の誉れ」であった。紀州産アヘンは1928年に大阪を抜いて日本内地で全国一となった。その後も隔絶した地位を占めた。その中心は有田郡、ついで日高郡だった」(講義映像より)」

#### 4-1 和歌山大学図書館 島津俊之

テロップ「和歌山大学の前身である和歌山県師範学校の郷土資料室には、ケシの畑の絵葉書がある(写真と掲載冊子)、これについて、発見者である島津俊之教授は語った」

島津俊之インタビュー「名所図の存在、戦後も含めてケシは郷土の誇りという感覚」

## 4-2 和歌山大学図書館紀州研 吉村輝旭

テロップ「ところが一昨年の調査で、あらたに2点のケシ栽培に関する写真が発見される。その2枚にはともに「和歌山女子師範印」の朱印が捺されていたのである。女子の部、女子師範学校の郷土資料室に伝わったアヘン採集の写真である。」

映像 紀州研の書庫より搬出される（吉村紀州経済史文化史研究所専任）

## 5-1 和歌山大学教育学部 田城賢司

テロップ「田城賢司氏の講義 県立高校の世界史教員で世界遺産センターに出向中の田城賢司氏は、ケシ栽培・アヘン製造と日本の対外侵略に注目し、著書を通じて発信した教育者であった」。

映像 和歌山大学での講義 「ケシ栽培の奨励がアヘン・ヘロイン作りにかかわることは当時の小学生さえも知っていた。」

## 5-2 和歌山大学教育学部 田城賢司

田城パワーポイント 14・15 提示

（講義声）「薬用アヘンは、アジア太平洋戦争を勝ち抜くために不可欠な財源であり、アヘン戦争以来の中国侵略のための重要なツールであった。それだけに専売制で莫大な利益をもたらすことになったが。和歌山の人々はこれをどのように考えていたのだろうか。」

## 5-3 日本のアヘン戦略について先行研究

画像 江口圭一・倉橋正直・みすず現代史史料、二反長音蔵のケシ栽培法の図

テロップ「歴史学研究者の間では日本のアヘン政策と中国侵略の関係には多くの注目が集まり、基本資料も収集されている常識であった。国内アヘン、和歌山との関りはいかなるものか。」

## 5-4 和歌山大学教育学部 学生の反応

テロップ「ケシ栽培に戦争協力の疑いがあり、和歌山大学教員養成がこれに加担したという疑惑に対して、受講生たちの反応は様々だった」「驚き 当惑 反発」

朗読（アンケートを短文引用）

- 「ケシが毒物の素ということすらしらなかった、有田の祖父母や湯浅の曾祖母に年末年始に聞いてみたい」
- 「当時の人々は貧困生活のなかでアヘン材料となることを知りつつもケシ栽培に精を出したのではないか」
- 「当時は地方特産物のひとつという認識で用途を知らされずにケシを栽培していたのだろう」
- 「授業も朝日新聞の記事もアヘン政策を日中戦争と直接結びつけ、目的が侵略にあったかのようであり、不満である」

## 5-5 彼らは知らなかったのか？

画面：師範学校教材写真

テロップ特大・「彼らは知らなかったですものだろうか？」

## 6 映画熊野路の衝撃 1935年熊野

テロップ 「南方熊楠の唯一の映像として5年前にNHK和歌山で公開された野村益三監督の1935年の記録映

画「熊野路」。ここには「情緒」として紀南の生活や植生が映されていた。女性の喫煙慣習（椿の葉の巻きたばこ）  
「しばまき」やケシ畑のアヘン汁採集も捉えられていた」

映像編集 女性喫煙（船上） アヘン採集 女性喫煙（農家） 全 20 秒余編集

### 7-1 由良ふるさと伝承館 川端邦男

由良町の由良ふるさと伝承館 旧白崎中学校

アヘン製造の道具実物を保管する学校史料館 当県では唯一。川端会長に聞く

アヘンの抽出の方法について 以下証言号数で映像対応

由良 127 号「一番切り二番、三番一 腰に付ける（道具説明）」映像実物史料

由良 600 号「(水田の裏作として) はじめは麦を作っていたそうです。それがケシにすると 3 倍の値で政府に買い取ってもらえる(ケシは専売制)。昭和 5 年に生産量は大阪を抜き昭和 10 年がピーク。中国に密売されて工作に使用された。-7:00」

由良 810 号 栽培取り方。「(写真をさし) 花咲いてますね 11 月に種をまき 5 月に収穫するのだが、花が咲いてから 10 日から 20 日でケシボウズがでる。以下道具と収穫法、アヘン乾燥機、その後、役場にもっていき収める。警察が来る場合もあった。」

### 7-2 由良ふるさと伝承館 川端邦男に追究

由良 1525 号 2450 号 1419 号証言 (1419 はラスト 8-3 の前置きにした方がいい?)

テロップ「(川端証言に疑問を投げる) 日記では栽培中に薬害が多発してます。本当に国策を知らずに作っていたのでしょうか」

由良 1419 「それまでは各家にねむっていたのを町史が集めたでした。由良町史編纂室」

テロップ「なぜ由良にしか残らない? 犯罪意識が処分させたのでは? と重ねて質問」

由良 1525 「それはなかった。戦争犯罪につかわれたという意識はなかった。ただ単に古道具として捨てたと思う。」

テロップ「子どもは薬害・土壌被害について知っていたのでは?」

由良 2450 「ぼくの小さい時分ケシ畑にはいって穫ったあと棒でなぎ倒しに入って遊んだ。もし危ないもの悪いものだったら許されなかったのではないか」

### 7-3 由良ふるさと伝承館 川端邦男つづき

テロップ「川端証言は、なにげない一言からも、アヘン生産の本質がみえる」

由良 300 「畑地区の人は有田から方から嫁にくる人が多い。結婚してね。その人たちがケシの採り方上手なそうです。上手とはモルヒネが多くとれるかどうか」(うかがい知れない地域差の構造 アヘンのキーパーソンは女性だった。「女子依存強制労働・地域差別(有田優位)」

### 7-4 由良ふるさと伝承館 川端邦男に和歌山大の戦争協力の可能性について聞く

テロップ「川端氏に聞く 和歌山大の戦争責任」

由良 2042+2127+2400 証言・和歌山大学の写真映像

由良 2042 「まず全国で和歌山が一番の生産地と勉強で教え誇る」

由良 2127 「これは何回も切ってるなあー (その後現存する道具と照らしてアヘン汁の栽培工程を考証していた) 2215 刃の構造について、一番切りに 3 本ありますね、二番切りになったら 4 本くらいありますかね。(刃が

付いてる)。ー2230

由良 2400 (なぜ女子師範か?) 「女の子どもの仕事というのもあったかもわからん」  
刃の説明のところフェードアウトするか

### 8-1 藤野隆晃 和大生へのメッセージ

「無知は許されない～ フェアウエーの犯罪性のように一見無意識のうちに悪事に加担していることがある。  
それに目を背けずに自覚すること。とにかく裏を知る事が大事じゃないのか」(2 カメ映像)

### 8-2 田城賢司 和大生へのメッセージ

「戦争を見る上では、加担ー抵抗という戦争観が大切だ。無意識の戦争協力はいつの時代も存在する。今回の研究を通じて痛感した」パワーポイント 18 (安達喜憲図)  
2 カメに重ねて学生たちの様子を 1 カメ

### 8-3 川端邦男 和大生へのメッセージ

「背景の真相を問い続けること」の大切さを朝日新聞で語っていますが、とふると  
由良 2600 号「国家機密をきっちり知っておかないと裏で何が起きているのか、太平洋戦争が起こる前、日本が中国に侵攻していった、中国人を苦しめたアヘン、その儲けた金で関東軍に飛行機を寄付した話など、そのような事実をきちんと教えていく、知っていくことが非常に大事だと思う。ケシがどのように使われたかについて記録に残すこと」

## 9 いまも問われることのない歴史 由良小学校

テロップ 由良小学校の校歌には 3 番の歌詞に「ケシの花咲く」と歌われる。川端氏によると、卒業生たちは、この校歌を「ケシの花咲く」と略称して懐かしんでいるという。

校歌の歌声 (音源にかぶせて) 映像は楽譜・体育館の歌詞幔幕

## 10 エンドロール

エンディングテーマ音楽 BGM スーパー上下スクロール

テーマ音楽制作 長廣俊崇

原作 紀伊半島世界史研究会編

『世界史とつながる日本史ー紀伊半島からの視座ー』

出演・証言 田城賢司

藤野隆晃

川端邦男

吉村輝旭

島津俊之

協力 由良町立由良ふるさと伝承館 (旧白崎中学校)

由良町立由良小学校

和歌山大学紀州経済史文化史研究所

南方熊楠顕彰館

朝日新聞社和歌山市局

中瀬古友夫

武内善信

吉川壽洋

島田 智

大橋直義

西岡芳文

和歌山大学教育学部

和歌山大学学術情報学課

声の出演 西島野乃花

監督 海津一朗

制作 西川明宏

予告編 <https://proself.center.wakayama-u.ac.jp/public/zgPgAApULA8AOcMBFIJ2XFaOxi7OS>

テーマ音楽 暫定楽譜以下

## 挿入音楽

♩ = 80

mf mp f

6 mf

10

※音楽ソフトの操作上の問題から形式の統一が不可能であった